つながる文具フェス

○…大阪文協…○

「ぶんぐ博」に2871人来場

大阪文具事務用品協同組合（金澤利治理事長）の第68回大阪・関西ぶんぐ博（オフィスフェア）は「つながる文具フェス」をテーマに、10月17日、天満橋のOMMビルで開催し、2871人が来場するなど、多数の文具ファンで賑わった。また、今回は京都文紙事務用品組合が共催という形で参加し、京都からの来場者も見込んだ。

当日は午前9時45分より主催者、来賓、出展社が出席してオープニングセレモニーを行い、金澤理事長が「今回は〝つながる文具〟をテーマに開催する。京文のユーザーフェアが今年開催されないということで、今年は京文との共催という形で企画している。また会場出口では12月3日に開催する神戸文協のユーザーフェアへもこの文具フェアから繋げるという〝繋げる〟をキーワードに開催したい。今日は東京とも繋がるというキーワードで、オカモトヤの出展をいただいている。今日1日は来場者に仕事の効率化や経費削減に繋がるということをキーワードに、繋がるという言葉と想いで一杯になるように、我々販売する側の思い、作り手の思いが伝わることを祈念したい」と挨拶。

主催者、出展社による記念撮影

出展社を代表して不易糊工業・鈴木勝也社長が「業界を取り巻く環境が大きく変化し、生成AIや国際情勢の不安定化などの要因により、ビジネスも大きく揺れ動いている。こうした時代だからこそ、文具が持つ価値が見直されるべきではないか。形で伝える、色で伝える、これは単なる作業ではなく、感性や想像、その感覚こそが人が学び、働き、生きるための万国共通の原点ではないか。その中で70年以上に渡り業界の中心を担ってきた大阪文協の存在は、より一層重要性を増している。メーカー、流通、販売の懸け橋として、組合が文具の力を信じ、守り、育ててきた業界の心臓部ともいえる。ぶんぐ博は単なる展示会にとどまらず、文具を通じて人と人が繋がる場であり、新しい発想が生まれる場だと感じている。出展社の製品や取り組みは時代を乗り越えるための創意と工夫が詰まっている。それを直接見学できることは、来場者にとってもかけがえのない機会になる。メーカーもこの場を通じてより良い文具の未来を築いていきたい」と挨拶し、祝電披露の後、主催者、来賓によるテープカットを行いオープンした。

フェアには提案コーナーを含めて65社が出品し、最新の文具事務用品、事務機器を展示したほか、メイン会場の体験コーナーでは、メナードフェイシャルサロンビューティーハンドケア。Fellne（オカモトヤが取り組む性差による働きにくさ解消を実現するフェムテックアクションの推進事業で誰もが働きやすく、自分らしく活躍できる仕事環境作りを提案）、色彩検定、菊澤＋おおもりARTコラボ、イケフェス大阪2025、大阪エヴェッサ応援ブースなどを実施した。

また、体験コーナーのワークショップでは、スクラップブッキング作家体験講習会&キット・材料販売、消しゴムはんこや〝AYK（あやこ）〟、透明ハンコTO－MEIHAN、シヤチハタ／Shachi・iro商品体験、呉竹／お気に入りのカラーで作れる！からっぽペン体験＋販売、あかしや／悠々写経体験＋販売…などを実施した。

提案コーナーには石元商事、金澤英、廣栄紙工、山陽製紙が小間を設営したほか、物販コーナーには16社が出品し、来場者がお気に入りの商品を買い求めていた。

今回は企業向けの招待状、大阪府下の後援機関への案内状配布、組合員店頭での案内、ポスター掲示、8月に開催した文紙MESEでの「ぶんぐ博であいましょう」チケット（4000枚）配布など、積極的に動員を図った。

当日は午後2時から、金澤理事長、佐野副理長、前田専務理事、京文・島理事長らが出席して記者会見を行い、金澤理事長が「今年のトピックとしてタイトルに〝大阪・関西ぶんぐ博〟を明記し、テーマを〝つながる文具〟と設定した。万博は世界と繋がるをテーマに開催したが、ぶんぐ博は文具を通じてお客と我々が繋がることに注力している。京文協のフェアはこれまで卸の見本市の翌日に開催していたが、卸の見本市が開催されないことから、今年は大阪との共催という形で、京都の小売店にもぶんぐ博の招待状を配布した。〝会いましょう企画〟では会場出口で、12月3日に開催する神戸文協のユーザーフェアの案内を行っている。また、東京のオカモトヤの女性向け災害対策用品フェルネを展示しているが、大阪の卸が扱っていない商材なので、販売店同士の繋がりということで展示できた」とした。

また、京文・島理事長は「京都、神戸のフェアは、ともに卸の見本市の後に開催していたが、京都、神戸も卸見本市がなくなり、京都は予算の関係で2年に1回という形で開催している。来年のフェアは11月末に開催を予定している。金澤理事長の説明通り、繋がるという意味で大阪、神戸、京都の組合が共有できるところは共有し、大きな輪にしていきたい」とした。

前田実行委員長は「我々の取り扱っている文具は、お客と繋がったり、お客がその先と繋がったりしており、業界の中では作り手、卸、販売店、使い手という、ここで繋がりの中で、文具があるということが我々の使命。一昨年、昨年と比べて今日は来場者の滞留時間が長く、会場には満遍ない来場者賑わっていると感じている。夕方には企業からの来場者が増えると思うので、より一層繋がるということに注力したい。来場者数については3000人前後を見込んでいる」と説明した。

フエキ
http://www.fueki.co.jp/

富士急ハイランドに新エリアを開業

サンエックスユニバースを展開

サンエックス株式会社（千田洋史社長、東京都）は、10月21日に東京・神田のベルサール神田で、「サンエックスユニバース＆富士急ハイランドサンエックス新エリア開業発表記者会見」を開催した。

会見では、鈴木正人常務取締役が今年9月に発表したサンエックスのキャラクターが世界を超えてあつまった新しいデザイン「サンエックスユニバース」について、さらにサンエックスの今後の事業展開について発表した。

記者会見フォトセッション

同社では、「サンエックスユニバース」の世界観をリアルで体験できる場所として、富士急ハイランドに常設の新エリア「サンエックスエリア（仮称）」を来年オープンする。コンセプトは、「キャラクター×癒し×遊園地＝『カワイイ』の化学変化」。サンエックスの癒される多彩なキャラクターたちと、遊園地のどきどきワクワク感を掛け合わせることで特別な世界へと没入感を味わえるエリアを目指す。

また、「リラックマ」や「すみっコぐらし」など人気キャラクターをはじめ、最近登場した新キャラクター、さらに懐かしさも感じる「たれぱんだ」や「にゃんにゃんにゃんこ」などが登場し、幅広い年齢・ターゲット層が楽しめる構成となる予定。

IPビジネスが一層の盛り上がりを見せる中、サンエックスの年間市場規模は約1000億円に拡大しており、キャラクター会社の老舗として培ってきた歩みを基盤に、「サンエックスユニバース」を通じて新たな可能性を広げていく。

「サンエックスユニバース」は、リラックマやすみっコぐらしをはじめとするキャラクターたちが世界を超えてあつまった新プロジェクト。テーマグッズとして発売した同社初のトレーディングカード「あつめてカードコレクション」がヒット、来年3月には新デザイン「サンエックスタウン」の商品化も予定している。

鈴木常務取締役は「キャラクターを生み出すだけでなく、『IPを大切に育てる』という姿勢がキャラクターを成長させ、永く愛されるキャラクターが多数いることが弊社の強み」と語った。

さらなるIP展開を見据え、同社では現在、キャラクターの映像コンテンツ強化に注力している。10月31日より上映されているすみっコぐらしの映画最新作「映画すみっコぐらし　空の王国とふたりのコ」は、シリーズ史上最多の301館で上映されている。また、ショートアニメ「リラックマ」のテレビが来年4月放送を予定している。サンエックスとファンワークスが共同で手掛ける新規IP「うそ探偵トマント」が電車内サイネージで放映。「映画すみっコぐらし」は、これまでに公開した映画第1弾から第3弾までで累計観客動員数は300万人超えを記録している。

海外展開にも力を入れており、同社初の海外オフィシャルストア「Rilakkuma Sumikko gurashi PLUS by San-X」を韓国・ホンデに1号店、チャムシルに2号店をオープン。総入場者数15万人、総物販売上4億円強の実績を上げている「サンエックス90周年うちのコたちの大展覧会」は、「サンエックス90周年記念展」として海外（台湾）で初開催する。

なお、記者会見当日は、「サンエックス好き」でも知られる、女優でフィギュアスケーターの本田望結さんが登壇し、自身のサンエックス愛を熱く語っていた。

サンエックス「ユニバース」をテーマにフェア

また、同社は記者会見翌日の10月22日～24日までの3日間、同会場で、キャラクター発表会「サンエックスユニバースフェア2025」を開催した。

フェアタイトルの「サンエックスユニバース」は、今年9月に発表された、リラックマやすみっコぐらしをはじめとするキャラクターたちが世界を超えて集まった新プロジェクト。

IPビジネスの盛り上がりを背景に、キャラクター会社の老舗として培ってきた歩みを基盤に、「サンエックスユニバース」を通じて新たな可能性を広げていく。

同フェアでは、「リラックマ」をはじめ「すみっコぐらし」「センチメンタルサーカス」「じんべえさん」「チキップダンサーズ」などの新テーマが発表された。

サンエックス「ユニバース」の展示コーナー

気軽に交流できる空間

キングジム「Meets」

グループがつながる場に

株式会社キングジム（木村美代子社長、東京都）は、東京都千代田区の本社2階を全面リニューアルし、KING JIM CREATIVE COMMONS〝Meets〟（Meets）をオープンした。

「Meets」は、部門や立場を超えた出会いから新しい発想が生まれる場をコンセプトに、キングジムグループの従業員や外部パートナーが気軽に交流できる新しい拠点。偶然の出会い（セレンディピティ）を通じて共創が始まることを目的としている。

今後は、新製品発表会やファンミーティング、ワークショップなどの社外イベント、グループ会社横断の社内研修など幅広く活用していく予定で、「Meets」を通じて、社内外の交流と共創を促進し、新しい価値の創出に取り組んでいく。

グループ各社の商品も展示された「Meets」

木村社長は「『Meets』は、部門や会社の枠を超えて仲間とつながり、新しい発想を生み出す共創の場。オフィスを『働く場』から『つながる場』へと進化させ、新しい舞台装置を活用し、クリエイティブ集団の輪を広げ、キングジムグループのバリューを発信し続けていく」と話す。

空間コンセプトは「OPEN×SHIFT」。固定されたワークスタイルから解放され、働く場所と休む場所の境界をなくすことで、従業員一人ひとりが自分に合ったスタイルで過ごせる環境を目指す。ボックス型会議スペース「SHIFT BOX LAB」は、上から見るとスクエア型でキングジムのロゴをイメージしており、「既存の枠をずらし、新しい可能性を生み出す場」を表現している。

ショウワノート 再生紙学習帳が準大賞受賞

初出展のPIショーで

ショウワノート株式会社（片岸茂社長、東京都）は、10月8～10日、東京・池袋のサンシャインシティ文化会館ビル コンベンションセンターで開催された「第72回インターナショナルプレミアム・インセンティブショー秋2025」（＝PIショー）に初出展した。

「サステナブル・セレクション・アワードコンテスト」において、山陽製紙の再生紙「PELP！ PAPER」から生まれた学習帳「PELP！学習帳」が準大賞を受賞した。

出展ブースでは、オリジナル学習帳やオリジナルおりがみのOEM再生紙の提案をはじめ、準大賞を受賞した「PELP！学習帳」（写真下）や、11月発売の「新・ジャポニカ学習帳」をアピールした。